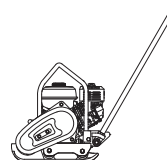




プレートコンパクター

MVC-F30H MVC-F40H/HS MVC-50H



取扱説明書

ja

三笠製品をお買い上げいただきありがとうございます。
ご使用前に本書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られる所に保管してご利用ください。



<http://www.mikasas.com>

401-03007



目 次

1 はじめに	1
2 機械概要	1
3 警告サイン	1
4 安全のための注意事項	2
4.1 一般的な注意事項	2
4.2 給油中の注意事項	2
4.3 使用場所、換気に関する注意事項	2
4.4 作業前の注意事項	2
4.5 作業上の注意事項	3
4.6 リフティング時の注意事項	3
4.7 運搬・保管に関する注意事項	3
4.8 整備上の注意事項	3
4.9 警告ラベルの絵文字説明	3
4.10 ラベルの取付位置図	4
5 外観図	6
5.1 外観寸法	6
5.2 コントロール装置位置及び操作名称	9
6 仕様	11
6.1 本体	11
6.2 エンジン	11
7 運転前の点検	13
7.1 点検	13
8 運転	15
8.1 始動	15
8.2 運転	16
9 停止	17
10 輸送	18
10.1 積み降ろし	18
10.2 運搬に関する注意事項	18
11 保管	19
12 定期点検と調整	19
12.1 各部点検スケジュール	19
12.2 エンジンオイルの交換	19
12.3 エアークリーナーの清掃	20
12.4 Vベルト・クラッチの点検	20
12.5 起振体オイルの点検・交換	21
13 トラブルシューティング	22
13.1 本体	22
13.2 エンジン	22

1. はじめに

- この取扱説明書は、プレートコンパクターの正しい取扱方法、簡単な点検及び手入れについて記載しています。本機の優れた性能を生かし、お仕事の能率を上げ効果的な作業を進める為に、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。
- お読みになった後も必ずお手元に保管し、分からない事があった時には取り出してお読みください。
- エンジンの取扱に関しては、別途エンジン取扱説明書を参照してください。
- 補修部品、パーツリスト、サービスマニュアル及び修理に関しては、販売店・当社各営業所もしくは三笠部品サービスセンターにお問い合わせください。なお、パーツリストは当社ホームページ <http://www.mikasas.com/> の三笠WEBパーツリストでも公開しております。是非ご利用ください。

この取扱説明書に記載されているイラストが、設計変更等により一部実機と異なる場合があります。

2. 機能概要

用 途

本機は起振体の一軸振動を転圧盤を介して地面に伝え、表面を平坦にする機械です。土砂及び砂利の敷き均しや、アスファルト舗装の仕上げ作業等表面を平坦にする作業に適します。

誤用途・ご使用の警告

水分の多い地面、特に粘土質の現場では、本機が進行せず作業に適しません。また、大きな石が含まれた土質の場合、転圧力が不足し敷き均しが出来ません。

本機は表層を平坦にする機械であり、締め固めを重視する現場には適しません。下層まで締め固めが必要な場合は、ランマー、バイブロコンパクター、振動ローラー等締め固め効果が大きい作業機を使用してください。

本機は土砂、土、砂、及びアスファルトの転圧に使用します。それ以外の作業に使用してはいけません。

構 造

本機上部は、エンジン、ハンドル、ベルトカバー、散水タンク(オプション)及びガードフック(F30H型を除く)で構成されており、これらを固定するエンジンベースは転圧盤に防振ゴムを介して固定されています。本機下部は転圧盤と起振体で構成され、起振体には一個のアンバランスシャフト(振子軸)が内蔵されています。このアンバランスシャフトには、上部のエンジン出力軸に取り付けられた遠心クラッチからVベルトを介し動力が伝達されます。

動力伝達

原動機として4サイクル空冷単気筒ガソリンエンジンを搭載し、エンジン出力軸には遠心クラッチが取り付けられています。

エンジン回転数を上げる事により、遠心クラッチが繋がり、クラッチドラムと一体のVプーリー・Vベルトを介して起振体Vプーリーと連結し、エンジン回転数を転圧に適した回転数に変換します。

起振体Vプーリーは、転圧盤に固定された起振体ケース内に設けられた一個のアンバランスシャフト(振子軸)を回転させ、それによって生じる振動を転圧盤に伝達させます。

転圧盤の振動で本機は前進し、振動と本機の重量で地面の転圧・均し作業を行います。

3. 警告サイン

本取扱説明書および機械に貼付けてあるラベルの  マークは警告サインです。安全上、必ず厳守してください。

	人体に対する危険がある場合
 危険	指示を守らないと、死亡または重大な傷害事故が生じる危険が極めて高い場合
 警告	指示を守らないと、死亡または重大な傷害事故が生じる危険があり得る場合
 注意	指示を守らないと、怪我や傷害事故が生じる可能性がある場合
注意	指示を守らないと、物的な損害が発生する可能性がある場合

4. 安全のための注意事項

4.1 一般的な注意事項

⚠ 警告

- こんな時は作業をしない。
 - 過労や病気などで体調が悪いとき。
 - 医薬品や薬物を服用したとき。
 - 飲酒をしたとき。



⚠ 注意

- 取扱説明書を良くお読み頂き、正しい取扱で安全に作業を行ってください。
- エンジンの取扱は別紙エンジン取扱説明書を参照してください。
- 機械の構造を充分理解してください。
- 作業を安全に行うために、防護具(ヘルメット、ゴーグル、安全靴、耳栓等)を着用し、適切な作業服で作業してください。
- 常に機械を点検し、正常であることを確認してから運転してください。
- 機体の貼付銘板(操作方法・警告銘板等)は安全を守るために非常に重要です。機体を清掃し、常に読みやすい状態を保ってください。読み取りにくくなった場合は、新しい銘板に交換してください。
- 幼児等が触れると大変危険です。保管方法、保管場所には充分注意してください。
- 点検・整備する場合は必ずエンジンを停止させ、水平な場所で行ってください。
- 三笠純正部品を使用しない場合や、改造及び修正を加える事で発生した如何なる事故・故障に関して、当社は一切責任を負いません。



4.2 給油中の注意事項

⚠ 危険

- 燃料を給油する時
 - 必ず換気の良い場所で行ってください。
 - 必ずエンジンを停止させ、エンジンが冷えてから給油してください。
 - 周囲に可燃物の無い平坦な場所を選び、こぼさないように注意してください。こぼれたら良く拭き取ってください。
 - 給油中は絶対に火気を近付けないでください。(特にタバコを吸いながらの給油は厳禁)
- 燃料は口元一杯まで入れるとこぼれる可能性があります危険です。給油レベルはエンジン取扱説明書に規定された量を守ってください。
- 給油後は、タンクキャップをしっかり締め込んでください。



4.3 使用場所、換気に関する注意事項

⚠ 危険

- 室内、トンネル内等換気の悪い場所では使用しないでください。エンジンの排気ガスには、有害な一酸化炭素等が含まれており、大変危険です。
- 火気のある傍での運転はしないでください。



4.4 作業前の注意事項

⚠ 注意

- 運転前点検を必ず行ってください。
- 各部分の締付具合を点検してください。振動でネジが緩んでいると思わぬ大きな故障の原因となります。ネジはしっかりと締め付けてください。

4.5 作業中の注意事項

⚠ 注意

- 長時間の使用は、はくろう病等に注意が必要です。本機は振動機械の為、長時間の運転は人体に悪影響を及ぼします。充分な間隔を空け使用してください。
- 本機を始動したり作業するときは、周囲の人や障害物に対して安全であることを確認してください。
- 常に足場に注意し、バランスを保てる無理の無い安定した姿勢で作業してください。
- エンジン本体、マフラー及びマフラーカバー等高温になる箇所は、運転直後等の熱い時は触れないように注意してください。
- 運転中や移動時、停止時等に本機の調子が悪くなったり、異常に気付いた場合は直ちに作業を中止してください。
- 本機から離れる場合は、必ずエンジンを停止させてください。また本機を移動する場合もエンジンを停止させて、燃料コックも閉じてください。

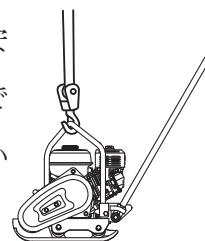


4.6 リフティング時の注意事項

クレーンによる積み下ろし作業は資格が必要です。クレーンの運転・玉掛け作業の資格がある人が行ってください。

⚠ 危険

- 吊り上げ作業に対し、本機部品(特にフック・防振ゴム)の損傷やネジの緩み・脱落が無く安全である事を確認してください。(MVC-F30型を除く)
- クレーンを使用しない場合は、2名以上で行い足場の悪い環境や無理な体勢で行わないでください。
- 本機体の用途外の手荒な取扱いは、機体の損傷や故障を発生させる為、絶対に行わないでください。
- 吊り上げ時はエンジンを停止させ燃料コックを閉じてください。
- 強度の充分なワイヤーロープ等を使用してください。
- 吊り上げ作業は一点吊りフックのみ使用し、その他の場所(ハンドル等)での吊り上げ作業はしないでください。(MVC-F30型を除く)
- 本機を吊り上げた際、下には絶対に人や動物を入れないでください。
- 安全の為、必要以上の高さには吊り上げないでください。



4.7 運搬・保管に関する注意事項

⚠ 警告

- 運搬時はエンジンを停止させてください。
- エンジン及び本機がよく冷えてから運搬してください。
- 運搬時は必ず燃料を抜いてください。
- 本機が動いたり、倒れたりしないようしっかりと固定してください。

4.8 整備上の注意事項

⚠ 注意

- 安全を確保し、本機の性能を維持する為に、適切な整備が必要です。本機の状態を充分留意し、良好な状態を維持してください。特に、リフティング関連部品の不適切な整備は重大事故の原因となります。
- 本機の温度が下がってから作業を行ってください。特にマフラーは高温になり、火傷をするおそれがあります。またエンジンやエンジンオイル、起振体等も熱くなりますので、火傷をしないよう充分注意してください。
- 点検調整は、必ずエンジンが停止した状態で行ってください。回転部に巻き込まれ、重大な傷害を負う危険性があります。
- 整備終了後、保安部品の取付及び安全性の確認を行ってください。特に、ボルト・ナットの点検は充分行ってください。



4.9 警告ラベルの絵文字説明



耳栓(イヤーマフ)の使用

本機の運転中は必ず耳栓(イヤーマフ)を使用してください。



回転部への巻き込み注意

運転中に回転部へは近づかないでください。Vベルト等の部品を交換する時は、必ずエンジンを停止してください。



取扱説明書熟読

運転前には必ず取扱説明書をよく読んで、操作内容を充分理解してください。また、いつでも確認できるように保管してください。

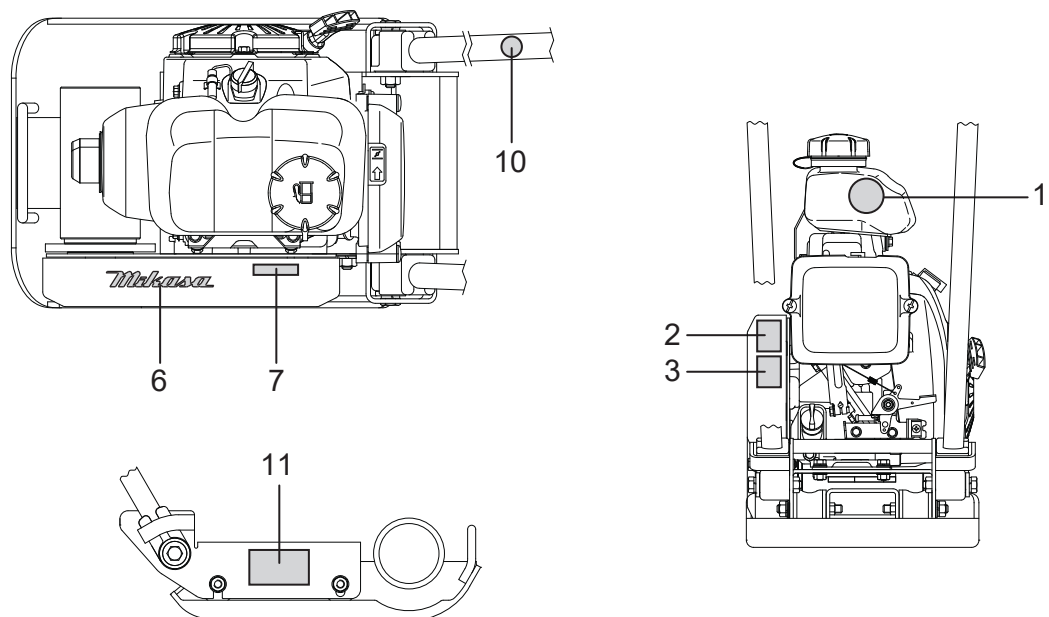


指定箇所以外での吊下げ禁止

本機を吊り下げる場合は、必ず指定された箇所で行ってください。

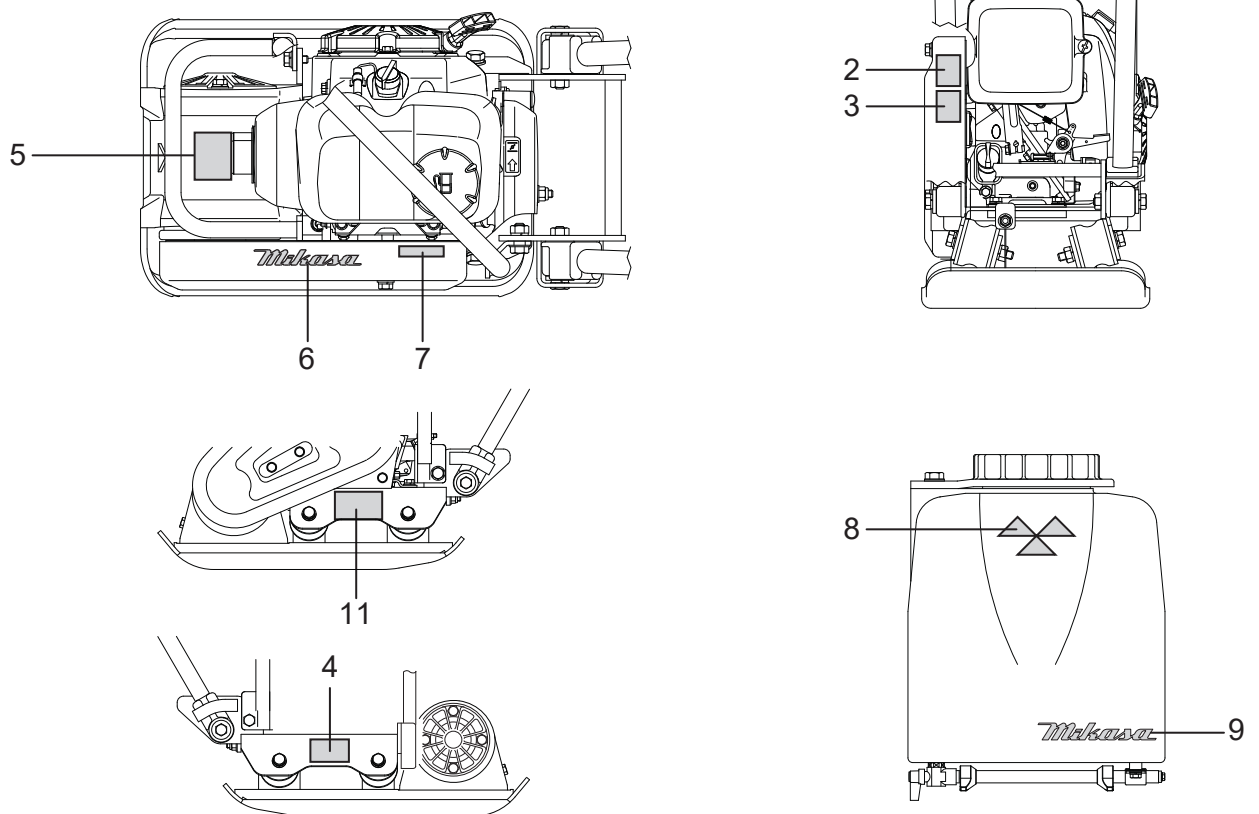
4.10 ラベルの取付位置図

MVC-30H

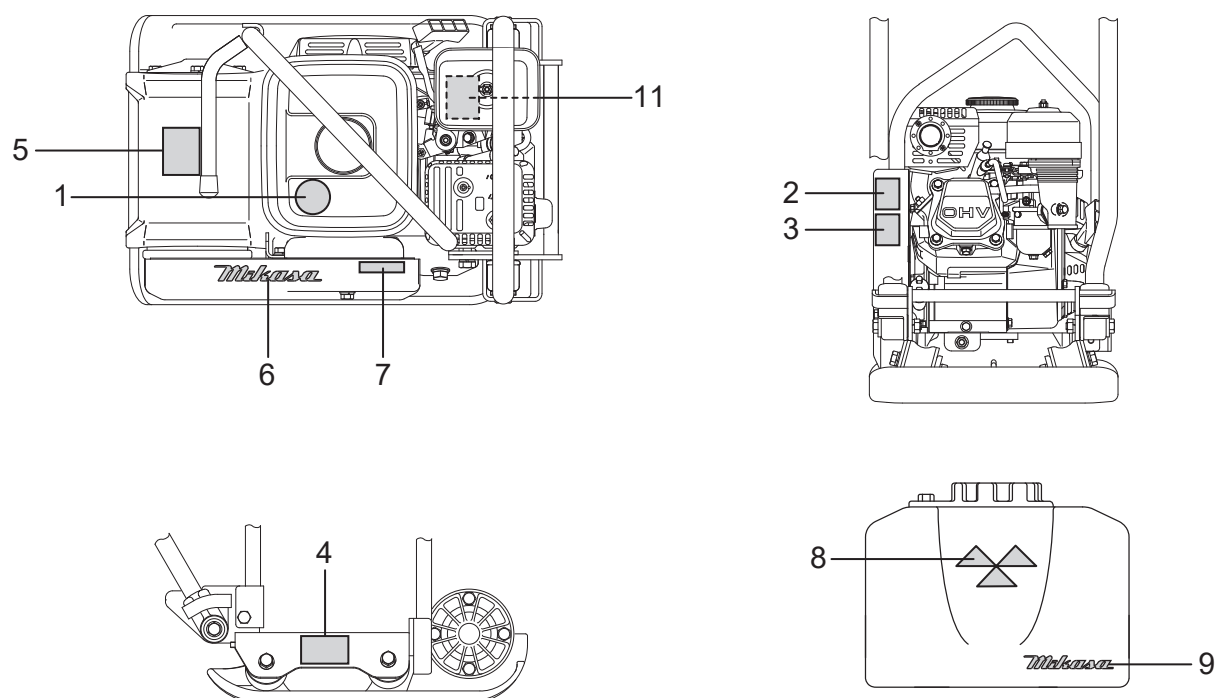


MVC-F40H MVC-F40HS

※ 掲載のイラストは”MVC-F40H型”です。



MVC-50H

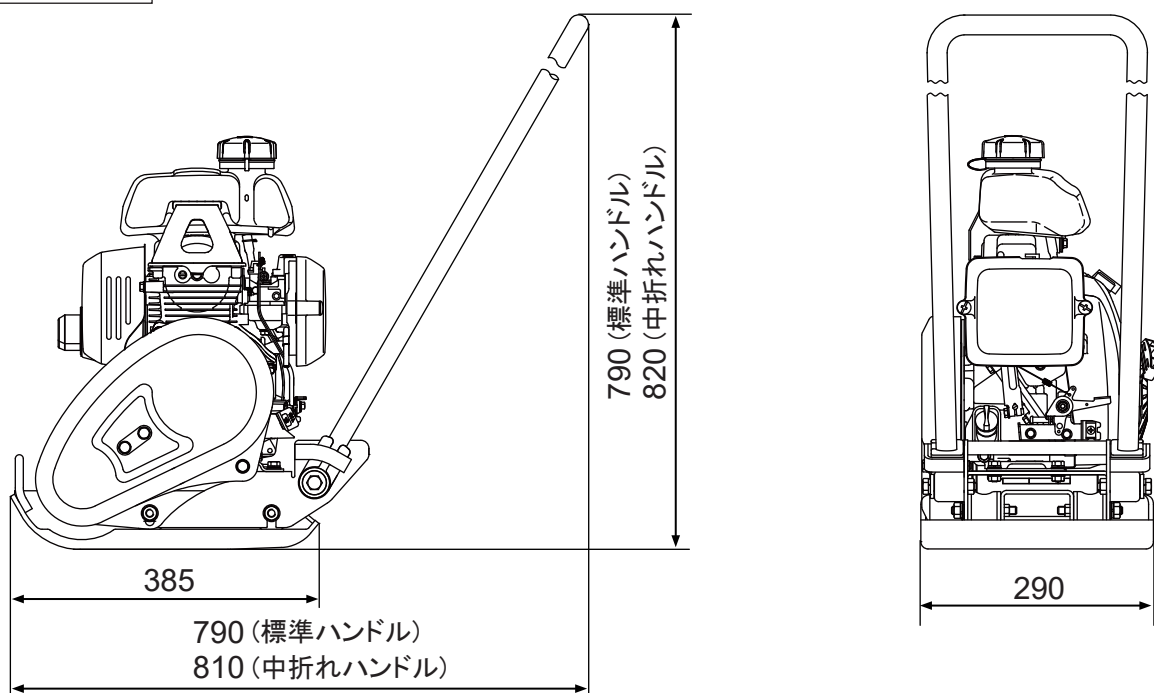


ラベルNo.	部品番号	部 品 名 称	枚数	備 考
1	9202-03330	銘板 騒音保護防止／和英共通／	1	
2	9201-08350	銘板, 取扱説明書熟読	1	
3	9201-08360	銘板, 回転部接触禁止	1	
4	9201-12790	銘板, 注意／一般取扱	1	
5	9201-12780	銘板, 注意／取扱注意	1	
6	9201-09530	銘板, Mikasa(125)イエロー	1	
7	9202-04820	銘板, Vベルトサイズ／RPF-3260	1	MVC-30H
7	9202-21230	銘板, Vベルトサイズ／RPF-3280	1	MVC-F40H,F40HS
7	9202-09150	銘板, Vベルトサイズ／RPF-3270	1	MVC-50H
8	9201-00920	銘板, 三笠マーク 80X40(黒)	1	MVC-50H/散水タンク
9	9201-05070	銘板, MIKASAロゴ(黒)125mm	1	MVC-50H/散水タンク
10	9202-14730	銘板, 吊上げ禁止	1	MVC-30H
11	9202-22150	銘板, 製番／MVC-F30H／国内／CE無	1	MVC-30H
11	9202-21560	銘板, 製番／MVC-F40H／国内／CE無	1	MVC-F40H
11	9202-21570	銘板, 製番／MVC-F40HS／国内／CE無	1	MVC-F40HS
11	9202-21270	銘板, 製番／MVC-50H／国内／CE無	1	MVC-50H
11	9202-21280	銘板, 製番／MVC-50HT／国内CE無	1	MVC-50H/散水タンク

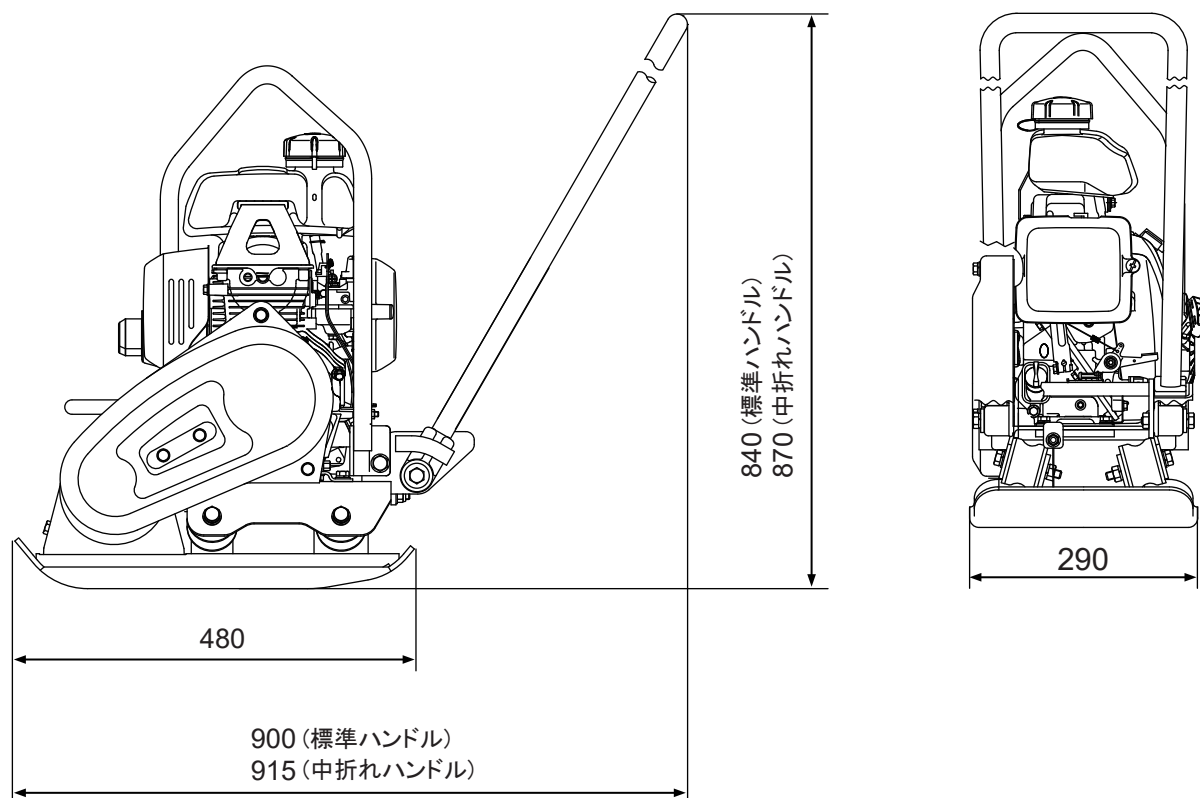
5. 外観図

5.1 外観寸法図 (単位:mm)

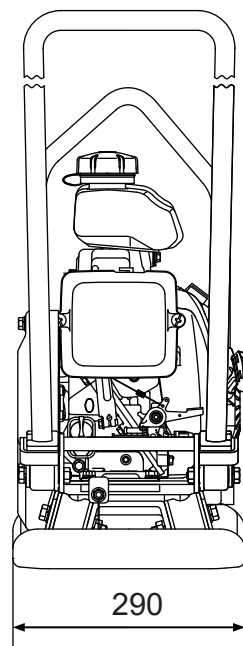
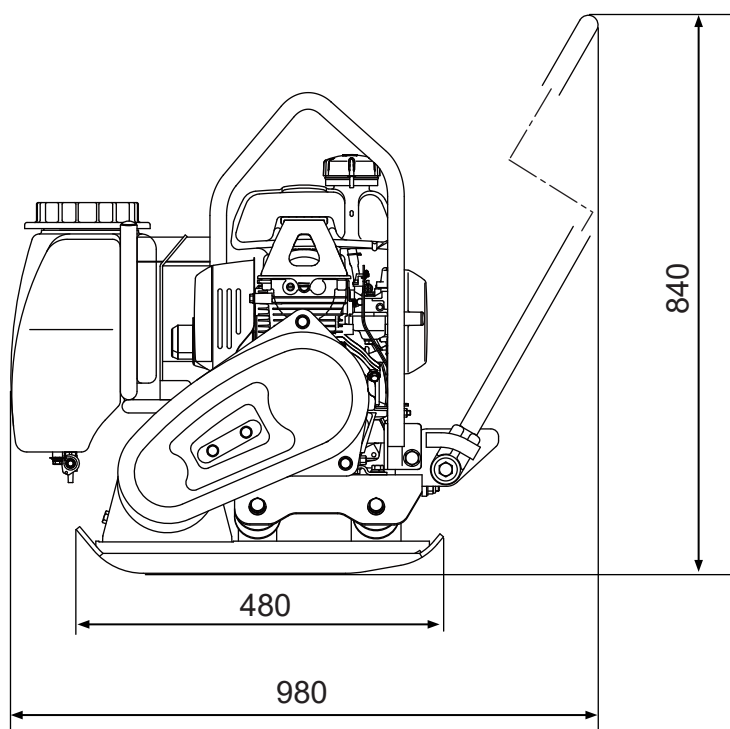
MVC-F30H



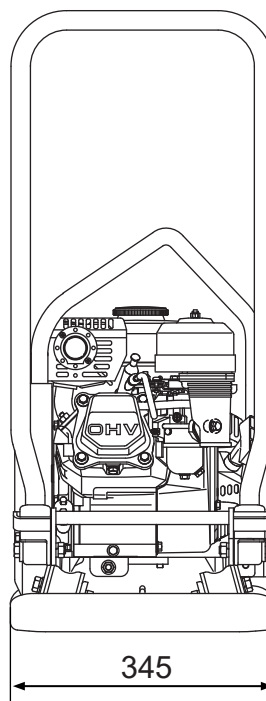
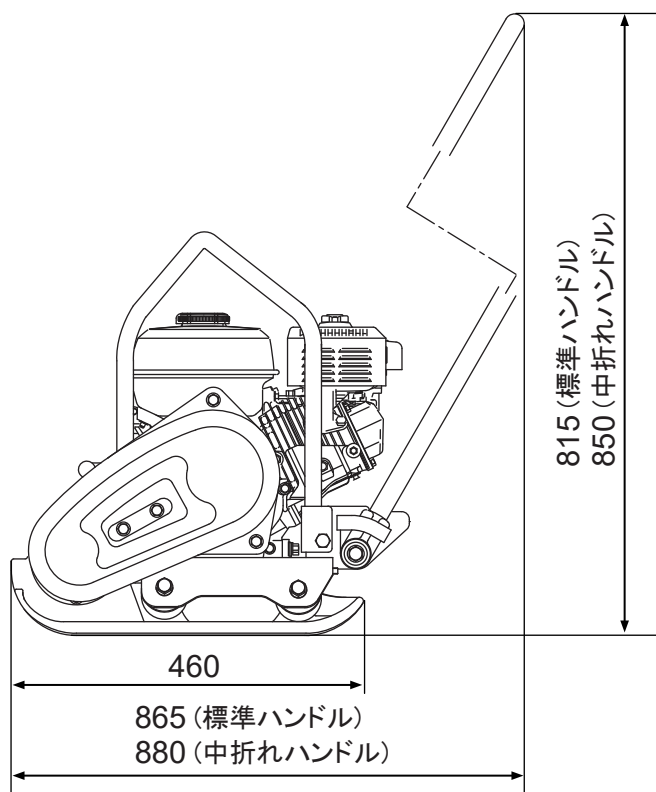
MVC-F40H MVC-F40HS



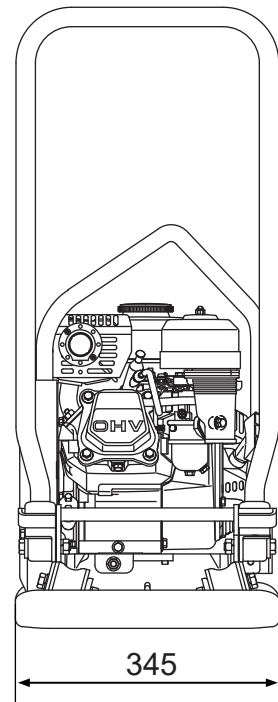
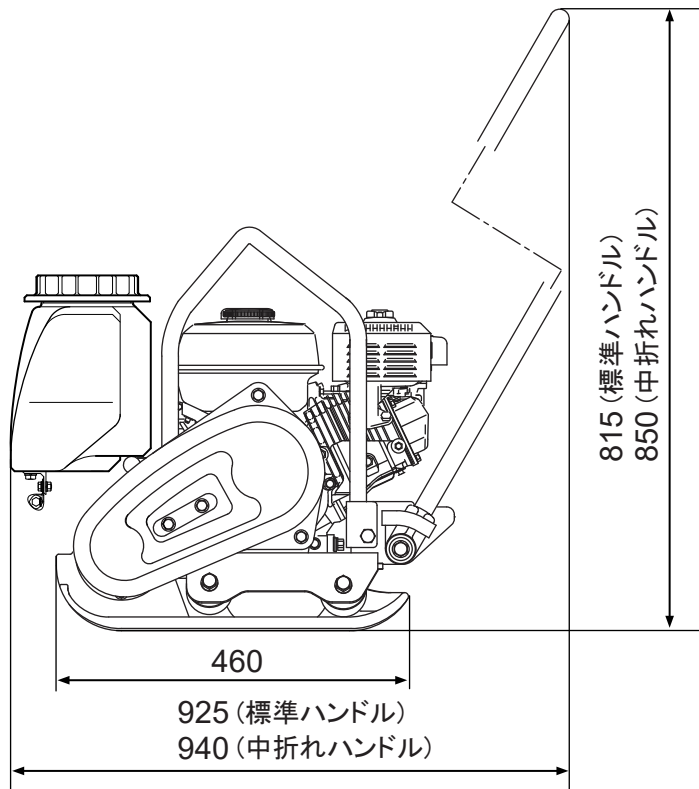
MVC-F40HT



MVC-50H

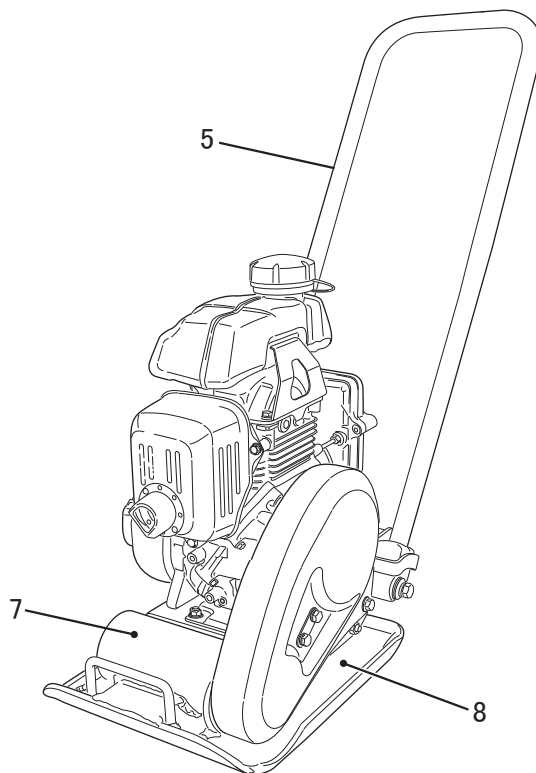


MVC-50HT

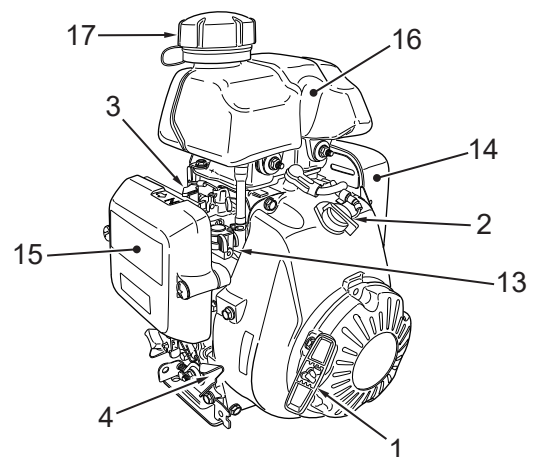


5.2 コントロール装置位置及び装置名称

MVC-F30H

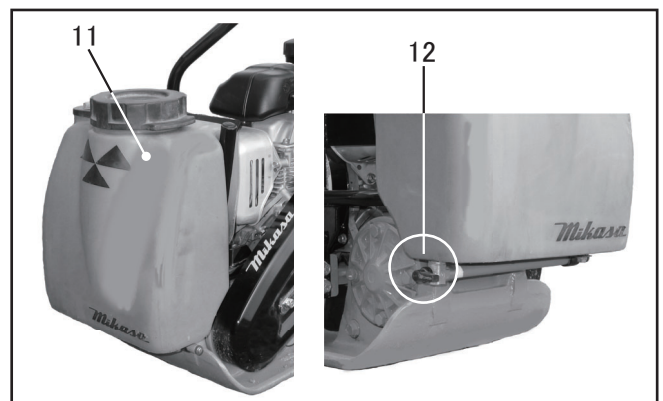
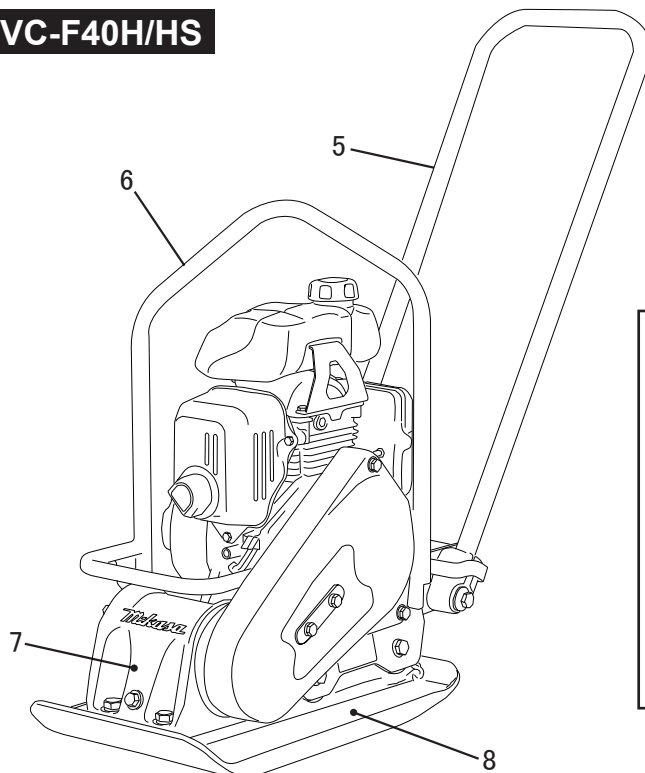


1. 始動ノブ
2. ストップスイッチ
3. チョークレバー
4. 調速レバー
5. ハンドル
6. ガードフック
7. 起振体
8. 転圧盤
9. 中折ハンドル
10. グリップボルト
11. 水タンク
12. 水コック
13. 燃料コック
14. マフラー
15. エアークリーナー
16. 燃料タンク
17. 燃料タンクキャップ



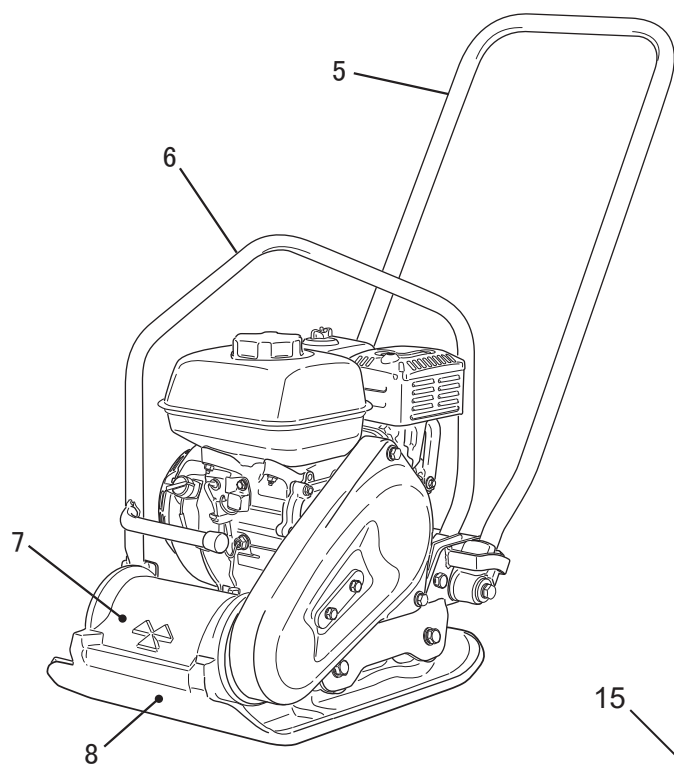
GX100型エンジン

MVC-F40H/HS

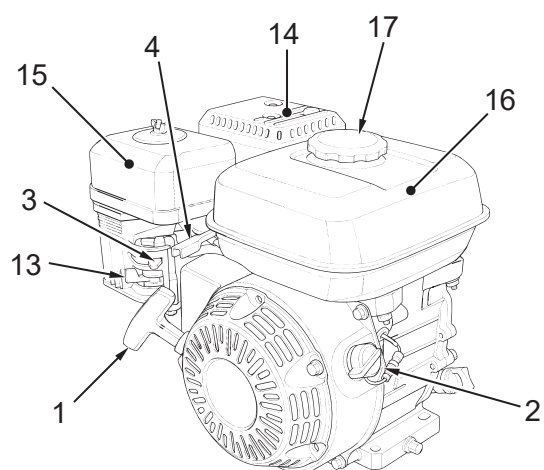


※ 掲載のイラストは“MVC-F40HS型”です。

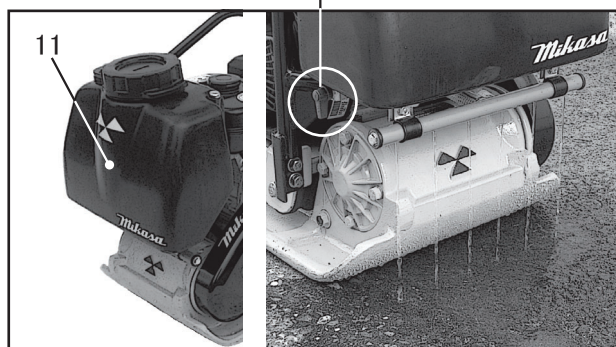
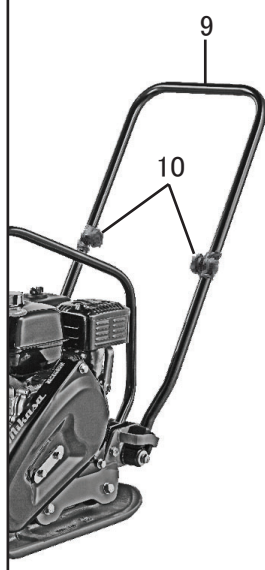
MVC-50H



GX120型エンジン



中折れハンドル



6. 仕様

本体

型 式	MVC-F30H		MVC-F40H	MVC-F40HT (水タンク付)
	標準ハンドル	中折ハンドル		
搭 載 エ ン ジ ン	ホンダ GX100	←	ホンダ GX100	←
主 要 寸 法				
全 長	790mm	810mm	900mm	980mm
全 幅	290mm	←	290mm	←
全 高(ハンドル)	790mm	820mm	840mm	←
輻圧盤(長さ×幅)	385X290mm	←	480X290mm	←
性 能				
振 動 数	98Hz(5900vpm)	←	103Hz(6200vpm)	←
遠 心 力	4.9kN(500kgf)	←	7.2kN(734kgf)	←
速 度	22 ~ 25m/min	←	20 ~ 25m/min	←
起振体オイル量	——	——	140cc	←
起振体オイル	——	——	SAE10W-30	←
機 械 質 量	38kg	39kg	51kg	53kg
使用 V ベルト	RPF3260	←	RPF3280	←
水タンク容量	——	——	——	9.0

型 式	MVC-F40HS	
	標準ハンドル	中折ハンドル
搭 載 エ ン ジ ン	ホンダ GX100	←
主 要 寸 法		
全 長	900mm	915mm
全 幅	290mm	←
全 高(ハンドル)	840mm	870mm
輻圧盤(長さ×幅)	480X290mm	←
性 能		
振 動 数	103Hz(6200vpm)	←
遠 心 力	7.2kN(734kgf)	←
速 度	20 ~ 25m/min	←
起振体オイル量	140cc	←
起振体オイル	SAE10W-30	←
機 械 質 量	54kg	55kg
使用 V ベルト	RPF3280	←
水タンク容量	——	——

エンジン

型 式	ホンダ GX100
機 関 型 式	空冷式 4 サイクルガソリンエンジン
容 積	98cc
最 大 出 力	2.1kW/3,600m ⁻¹ 2.9PS/3,600rpm
冷 却 方 式	強制空冷式
使用潤滑油	自動車用エンジンオイル (SE 級以上) SAE#20 ~ #30(寒冷時 10W-30)
潤滑油量	0.4L(400cc)
使用燃料	自動車用無鉛ガソリン
燃料タンク容量	0.77L
使用点火栓	NGK CR5HSB

本体

型 式	MVC-50H		MVC-50HT (水タンク付)	
	標準ハンドル	中折ハンドル	標準ハンドル	中折ハンドル
搭 載 エ ン ジ ン	ホンダ GX120	←	←	←
主 要 寸 法				
全 長	865mm	880mm	925mm	940mm
全 幅	345mm	←	←	←
全 高 (ハンドル)	815mm	850mm	815mm	850mm
輻 圧 盤 (長さ×幅)	460X345mm	←	←	←
性 能				
振 動 数	97Hz(5800vpm)	←	←	←
遠 心 力	9.8kN(1000kgf)	←	←	←
速 度	20 ~ 25m/min	←	←	←
起 振 体 オ イ ル 量	300cc	←	←	←
起 振 体 オ イ ル	SAE10W-30	←	←	←
機 械 質 量	58kg	59kg	61kg	62kg
使 用 V ベ ル ト	RPF3270	←	←	←
水 タ ン ク 容 量	—	—	8.5L	←

エンジン

型 式	ホンダ GX120
機 関 型 式	空冷式 4 サイクルガソリンエンジン
容 積	118cc
最 大 出 力	2.6kW/4,000m ⁻¹ 3.5PS/4,000rpm
冷 却 方 式	強制空冷式
使 用 潤 滑 油	自動車用エンジンオイル (SE 級以上) SAE#20 ~ #30(寒冷時 10W-30)
潤 滑 油 量	0.56L(560cc)
使 用 燃 料	自動車用無鉛ガソリン
燃料タンク容量	2.0L
使 用 点 火 栓	NGK BPR6ES

7. 運転前点検

警告

- エンジンを停止させた状態で点検を行ってください。回転部に巻き込まれますと、重大な傷害を負う危険性があります。
- 本機の温度が下がってから点検作業を行ってください。特にマフラーは高温になり、大やけどをする危険性があります。



作業前各部点検表

点検箇所	点検項目	点検箇所	点検項目
外観	傷、ゆがみ、汚れ	防振ゴム	傷、変形、亀裂、破損
エアークリーナー	汚れ、傷、変形	エンジンオイル	汚れ、油量
転圧盤	摩耗、変形、破損	エンジン板ボルト	摩耗、変形、破損
ボルト、ナット類	ゆるみ、脱落	燃料タンク	漏れ、量、汚れ
ハンドル	傷、変形、亀裂、破損	燃料系統	漏れ、傷、ゆるみ

エンジン各部の点検詳細は、別冊のエンジン取扱説明書を参照してください。

7.1 点検

危険

エンジンが停止した状態で点検を行ってください。回転部に巻き込まれますと、重大な傷害を負う危険性があります。本機を水平にし、機体が動かない事を確認してから点検してください。

- 作業前の点検箇所の詳細は19ページに記載されている「各部点検スケジュール表」を参照してください。

1. 各部を綺麗に掃除し、泥・埃の無いように手入れをしてください。
特に転圧盤の底面に付着した泥、エンジンの冷却風吸入口、気化器及びエアークリーナーの周辺は綺麗にしてください。
2. 各部の締付ネジが緩んでいないか確認してください。振動のためネジが緩んでいると思わぬ事故や故障の原因となります。
3. ガードフック、ベルトカバー、防振ゴムを点検し、破損が無いか確認してください。
4. Vベルトの緩みを点検してください。張りの具合は両軸の中間の所を強く指で押して10～15mm位たわむように張ってあれば正常です。
Vベルトが緩んでいますとベルトがスリップしてエンジンの動力伝達が悪くなると共にベルトが発熱し、Vベルトの寿命も短くなります。また発生する転圧力が小さいのでエンジンの回転を上げると不整振動が発生し故障の原因となります。
5. エンジンを水平にしてオイルを点検し、不足している場合は補充してください。(図1)
エンジンオイルは次の表に従い使用してください。

季節	温度	使用オイル
夏	25℃以上	SAE 10W-30
春・秋	25 ～ 10℃	SAE 10W-30/20
冬	10 ～ 0℃	SAE 10W-20
	0℃以下	SAE 10W-10
SE 級 (API 規格) 以上		

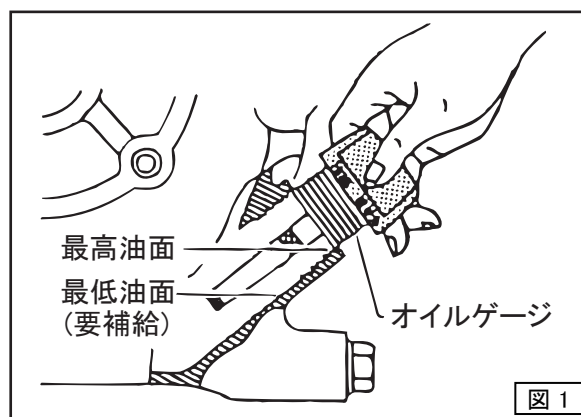


図 1

6. 本機を水平にして起振体のオイルレベルプラグを外し、起振体オイルが口元まで入っているか確認してください。オイルレベルプラグはMVC-50H型は起振体ケース右側面(反ベルト側)に、MVC-F40H/HS型は起振体ケースの正面にあります。(図2)

MVC-F30H型の起振体はメンテナンスフリーです。オイルの補充や交換は必要ありません。

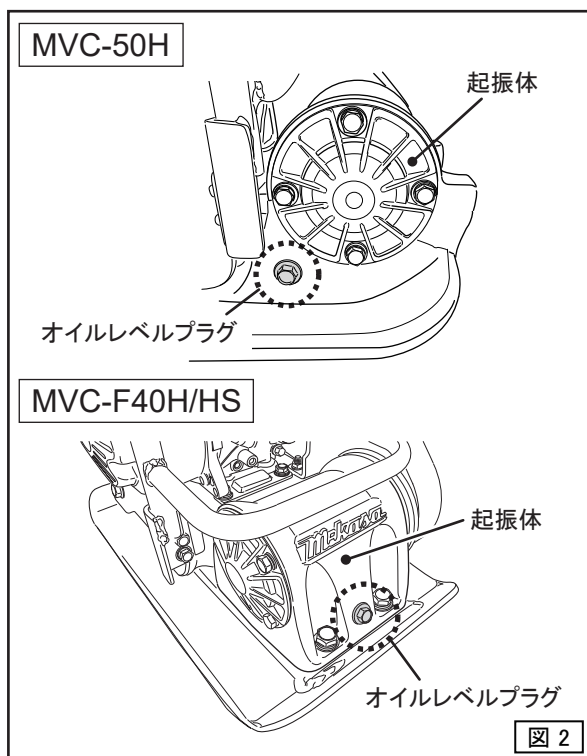
- 起振体オイルはエンジンオイル#10W-30(SAE)を使用してください。

起振体オイル油量

MVC-50H: 300cc

MVC-F40H,F40HS: 140cc

- 起振体オイルは1ヶ月又は200時間運転毎にプラグを外し、機体を傾けて全て排出させ、新しい物と交換してください。

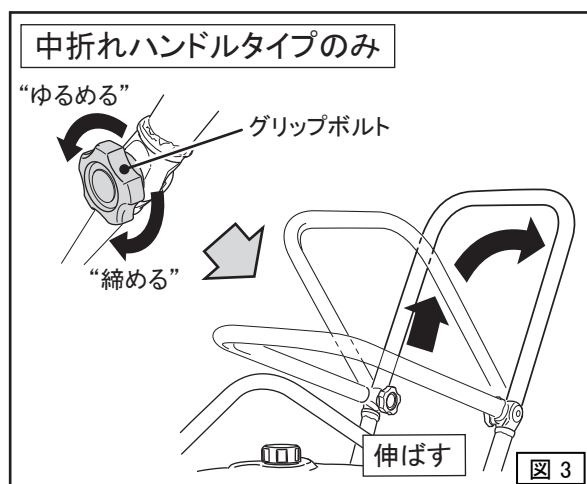


7. 燃料は自動車用無鉛ガソリンです。燃料を入れる場合は必ずフィルターを通して濾過しながら入れてください。

⚠ 危険

- エンジンをかけたままで絶対に給油しないでください。火災の危険があります。
- 燃料補給中は絶対にタバコを吸ったりその他火気を近付けないでください。火傷や火災等重大な危険を引き起こす恐れがあります。
- 燃料を補給する時は周囲に可燃性の無い場所を選び、燃料をこぼさない様に注意してください。もしこぼれたら良く拭き取って乾燥させてください。

8. 使用前に折りたたまれている中折れハンドルを伸ばします。グリップボルトをゆるめてハンドルを伸ばしグリップボルトを締め込みます。移動や保管時に中折れハンドルをたたむと、コンパクトになって便利です。(図3)
ノッチタイプなので自由な角度で固定できます。



9. 散水作業の場合は水タンクに注水してください。(MVC-F40H型、50H型)

注 意

- 水以外を入れてはいけません。水以外の液体を入れると、樹脂・タンクキャップシール等の劣化、膨張の恐れがあり漏れや破損の原因となります。
- 水タンクに入れる水は、必ず水道水を使用してください。水道水以外ですとゴミ等が混入して水コックや散水管がつまる場合があります。

10. 水タンクは上方に引き抜く事で取外しが出来ます。外した水タンクを再び装着する場合は水タンクの溝にフックをしっかりと差し込んでください。散水の量はコックで調整ができます。

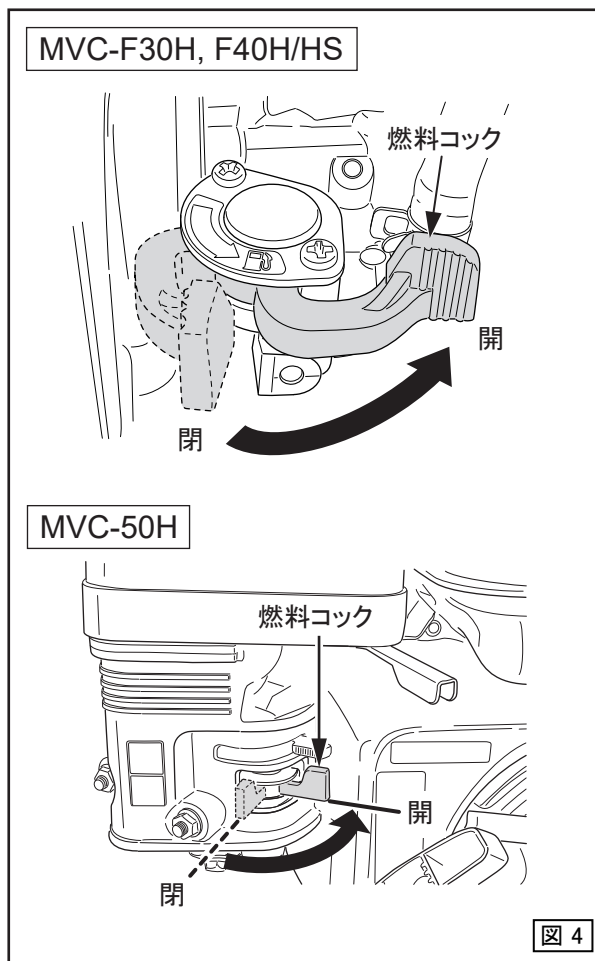
8. 運転

8.1 始動

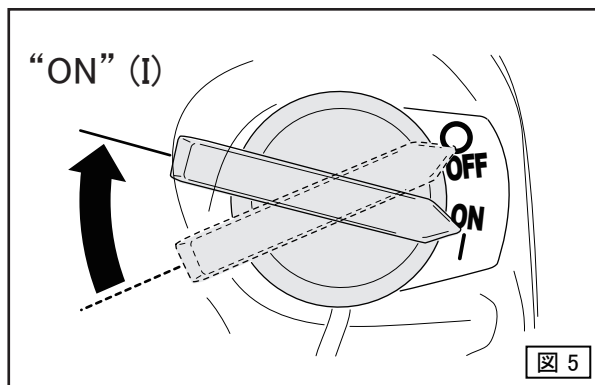
⚠ 危険

エンジンの排気ガスには一酸化炭素が含まれており大変危険です。換気が悪い所や屋内では使用しないでください。

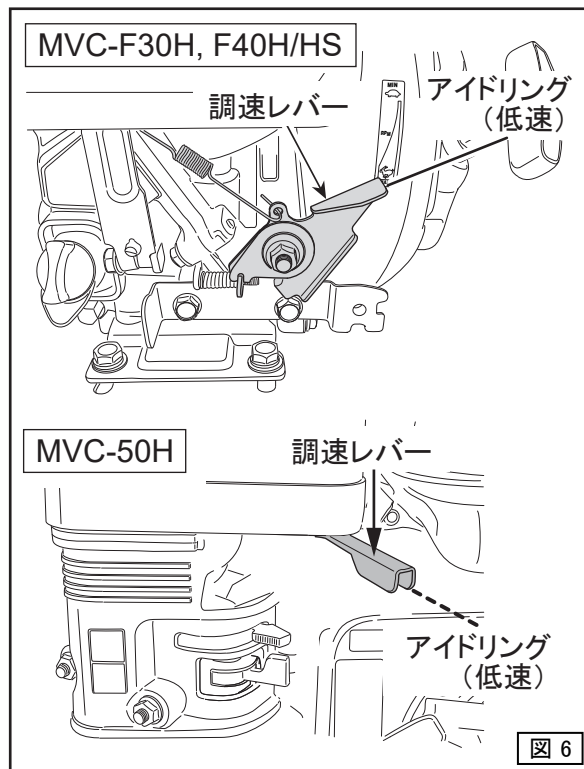
1. 燃料コックのレバーを開いて燃料を通します。(図4)



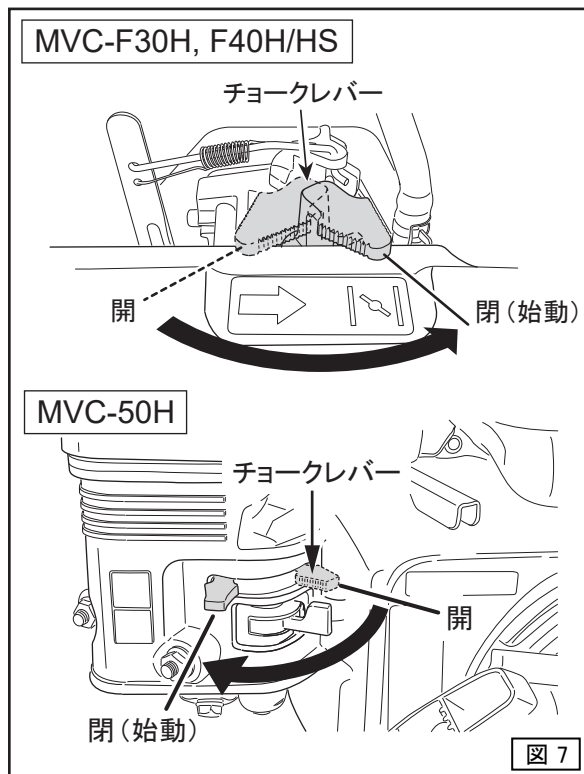
2. ストップスイッチを“ON(I)”の位置にします。(図5)



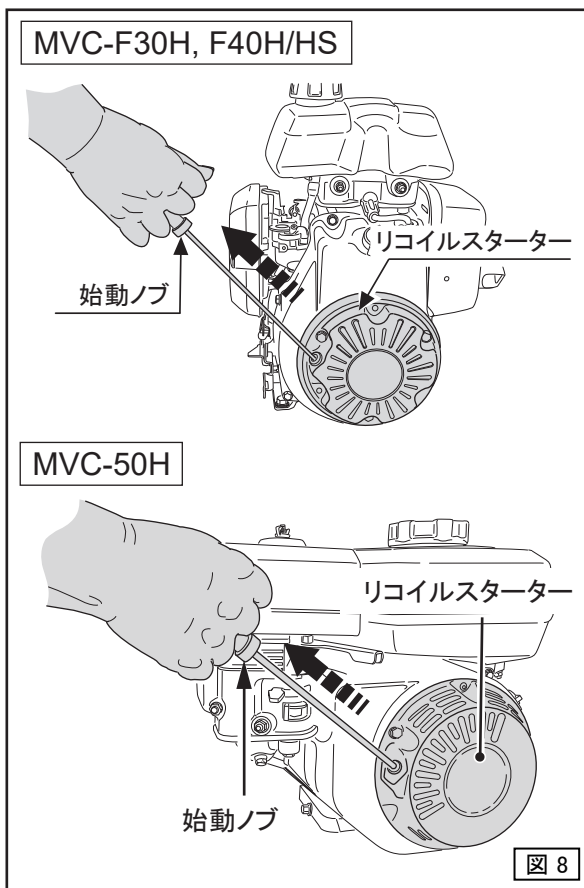
3. 调速レバーをアイドリング(低速)位置にします。(図6)



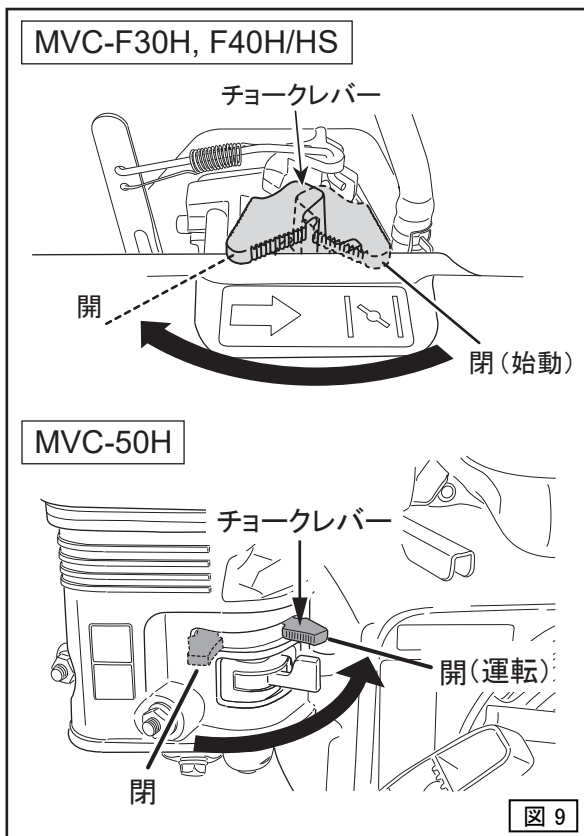
4. チョークレバーを閉じ(始動)ます。冬期やエンジンが冷えている時は全閉にし、暖かい時やエンジン停止直後の再始動時には半開か全開にします。(図7)



5. リコイルスターターの始動ノブを握り、少し引くと重くなる(圧縮点)があります。そこから勢い良く引張ってください。この時、ロープを引張りすぎるとロープが切れたり抜けてしまう恐れがありますから注意してください。(図8)

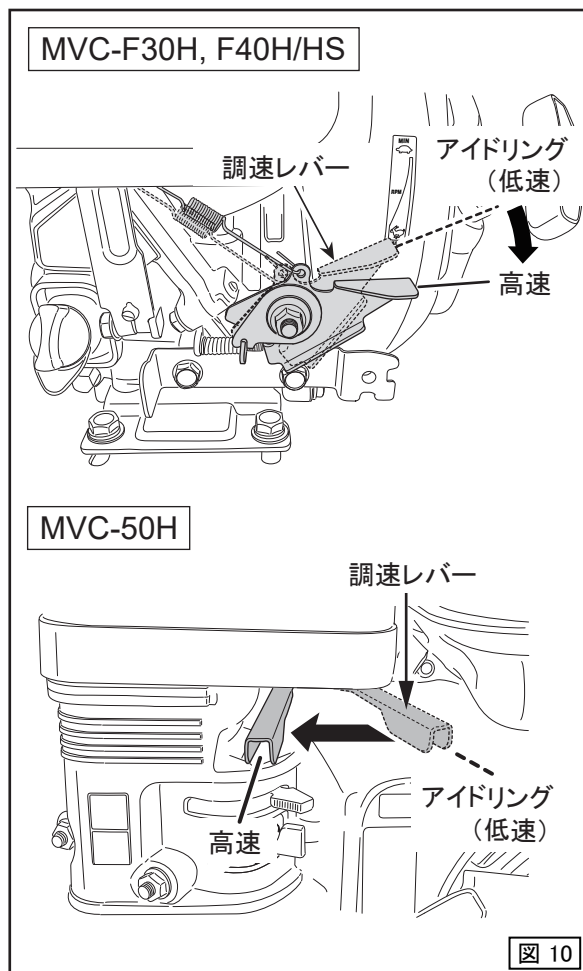


6. エンジンが始動したらすぐに调速レバーを戻し、エンジンの回転音を確認しながらチョークレバーを徐々に戻し全開にします。(図9)
始動後は、必ず2～5分程度低速で暖機運転を行います。特に寒冷時には必ず実行してください。



8.2 運転

1. 调速レバーを開く(高速)と本機は振動と前進を始めます。调速レバーをゆっくり開くとクラッチがスリップした状態のままになりますので、调速レバーの開閉は一気に行ってください。(図10)



注意

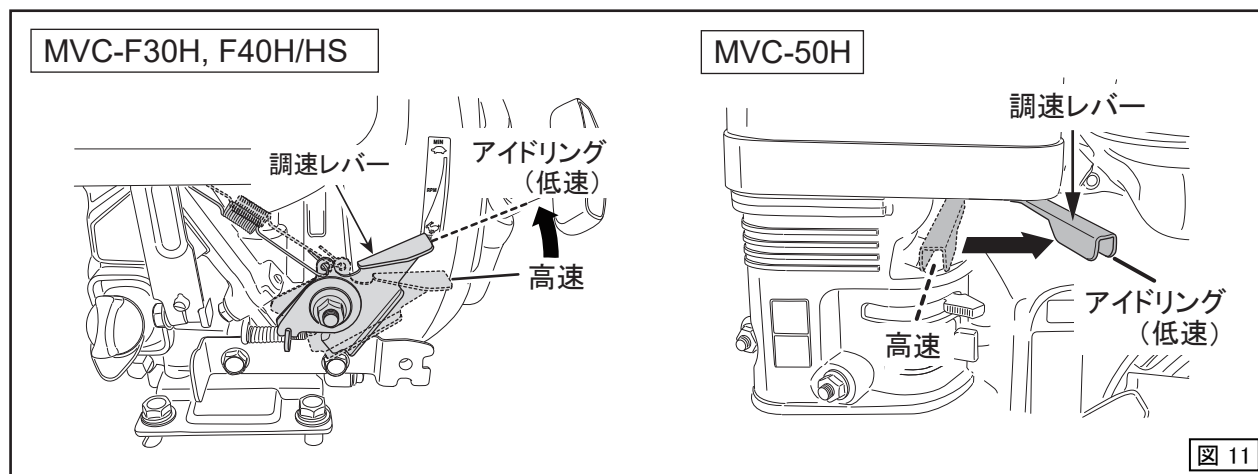
粘土を含む土壌で作業する場合は、転圧盤が地面から離れにくく、走行が遅くなります。このような場合は転圧盤の底面に粘土が付着していないかを点検してください。なお、粘土質や高含水比の土壌では本機の転圧力が有効に働かないため、ランマー等の転圧機を使用するか、適正な含水比になるまで乾燥させてください。

2. 散水作業を行う時は、水タンクのコックを開いてください。(MVC-F40H型、50H型)

注意

水タンクに入れる水は、必ず水道水を使用してください。水道水以外ですとゴミ等が混入して水コックや散水管がつまる場合があります。

3. 運転を止める時は、調速レバーを一気にアイドリング(低速)の位置へ戻してください。(図11)

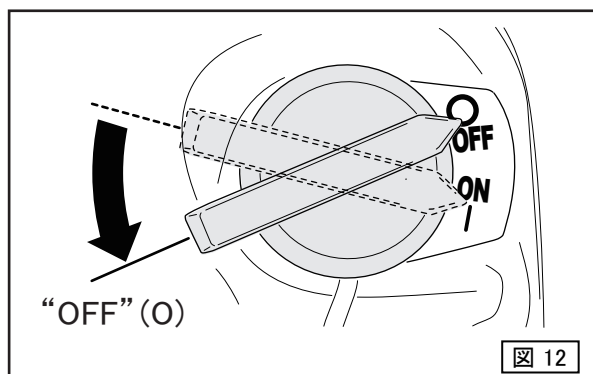


9. 停止

1. エンジンを停止させる時は、ストップスイッチを“OFF(O)”側に回してください。
運転中の場合は、調速レバーをアイドリング(低速)に戻して3~5分程エンジンを回して温度が下がってから停止させてください。(図12)

⚠ 危険

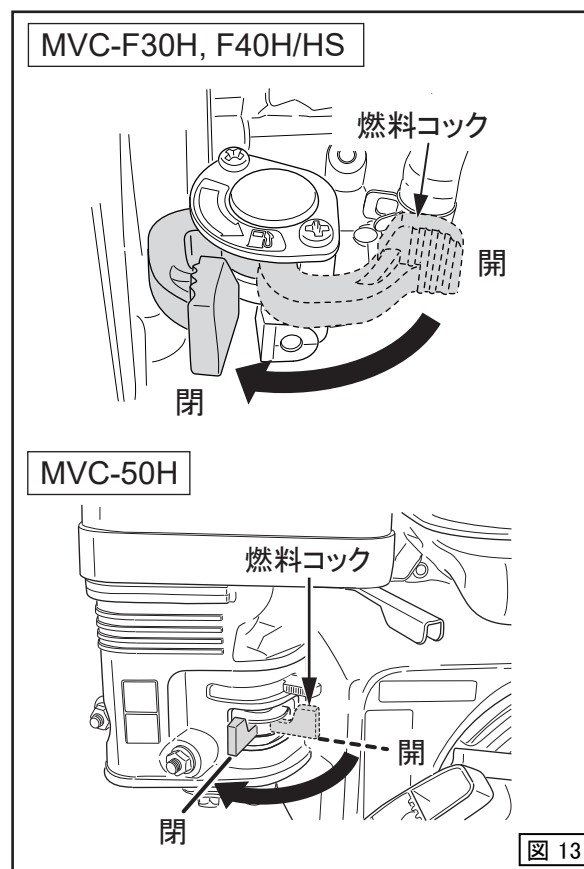
エンジンを高温の状態で停止させると、シリンダー内部の磨耗が早まり、エンジンの故障の原因となります。



⚠ 危険

エンジンの回転が完全に停止するまでは、ストップスイッチを“ON(I)”側にしないでください。再度エンジンが回転し始めて危険です。

2. 燃料コックのレバーを閉じてください。(図13)



3. 散水作業を行っていた時は水タンクのコックを閉じます。

10. 輸送

クレーンによる積み込み・積み下ろし作業はクレーン・玉掛けの資格が必要です。

警告

- ガードフレームや防振ゴムの破損、ネジの緩み、脱落が無く安全である事を確認してください。
- 吊り上げの際は必ずエンジンを停止させ、燃料コックを閉じてください。
- 強度が充分で、キンクや型崩れの無いワイヤーロープを用いてください。
- 真っ直ぐに衝撃をかけないようにゆっくり吊り上げ、吊り上げた機械の下には絶対に人や動物が入らないようにしてください。
- 安全のため、必要以上の高さには吊り上げないでください。

10.1 積み下ろし

1. 本機の積み込み積み下ろしはクレーン等で行ってください。
2. 積み下ろし作業の際は指揮者を決め、必ず指揮者の指示により作業を行ってください。
3. 吊り上げの際は必ずガードフックに吊り上げ具を引掛けてください。(図14)

危険

ガードフック以外の場所(ハンドルや転圧盤等)に吊り上げ具を引っ掛けての吊り上げ作業は絶対に行わないでください。

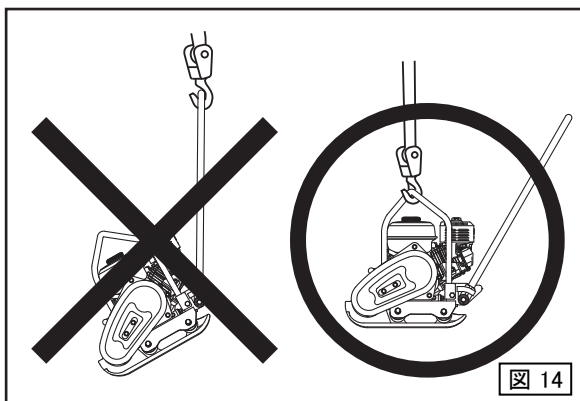


図 14

10.2 運搬に関する注意事項

警告

- 運搬時はエンジンを停止させ、燃料コックを閉じてください。
- 運搬時は必ず燃料を抜いてください。
- 本機が動いたり、倒れたりしないようしっかり固定してください。

10.3 中折れハンドル

- 移動や保管時に中折れハンドルをたたむと、コンパクトになって便利です。(図15)
グリップボルトをゆるめてハンドルを折りたたみ、グリップボルトを締め込みます。
ノッチタイプなので自由な角度で固定できます。

中折れハンドルタイプのみ

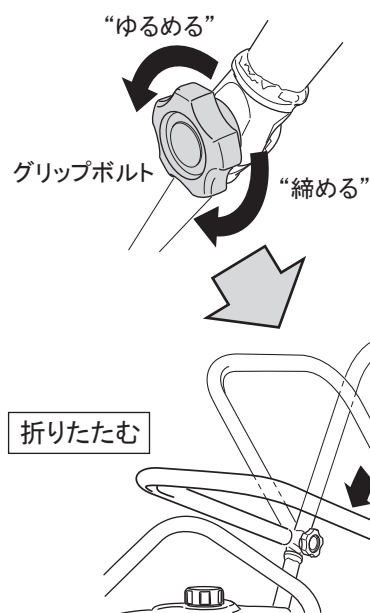


図 15

11. 保管

1. 各部のゴミや泥を水洗いして落とし、十分に乾燥させてください。
2. ゴミ、埃がかからないようカバーをかけて直射日光の当たらない湿気の少ない場所に格納してください。
3. 平坦な場所に置き、積み重ねないでください。
4. 屋外に放置しないで、必ず屋内で保管してください。
5. 長期保管の場合
 - 燃料タンク、燃料パイプ、キャブレターの燃料は綺麗に抜き取ってください。
 - エンジンオイルの補充・交換をもれなく行ってください。
 - スパークプラグを外してエンジンオイルを数滴シリンダ内に流し込み、数回手回して(始動ノブを引いて)内部に充分行き渡らせましょう。
 - エアクリナー、マフラーの吸入口及び排気口をしっかりと覆ってください。
 - 屋外に放置しないで、必ず屋内に格納してください。
 - 本機を横(後)倒しにして保管しないでください。

12. 定期点検と調整

12.1 各部点検スケジュール表

点検時期	点検箇所	点検項目	油脂類
毎日（作業前）	外観	傷、ゆがみ	
	燃料タンク	漏れ、油量、汚れ	ガソリン
	燃料系統	漏れ、油量、汚れ	
	エンジンオイル	漏れ、油量、汚れ	エンジンオイル
	防振ゴム	亀裂、磨耗、破損	
	起振体オイル	漏れ	エンジンオイル
	エアクリナー	スポンジの埃	
	ガードフック	破損、傷、ボルト・ナットの緩み・脱落	
	ボルト・ナット類	緩み・脱落	
20 時間	エンジンオイル	初回のみ20時間で交換	エンジンオイル
100 時間毎	エンジンオイル	交換	エンジンオイル
	起振体オイル	漏れ、油量、汚れ	エンジンオイル
200 時間毎	V ベルト	傷、張り	
	クラッチ	汚れ、傷、磨耗	
	エンジン板ボルト	ゴムの摩耗・変形・劣化	
	起振体オイル	交換	エンジンオイル
2 年毎	燃料パイプ類	交換	
不定期	エアクリナーエレメント	交換	

エンジン関係の点検及び整備につきましては、付属のエンジン取扱説明書を参照してください。

注) 上記は標準状態での点検時間です。使用条件により内容が異なりますので御注意ください。

12.2 エンジンオイルの交換

エンジンオイルは初回は20時間、以後100時間運転毎に交換してください。

12.3 エアークリーナーの清掃

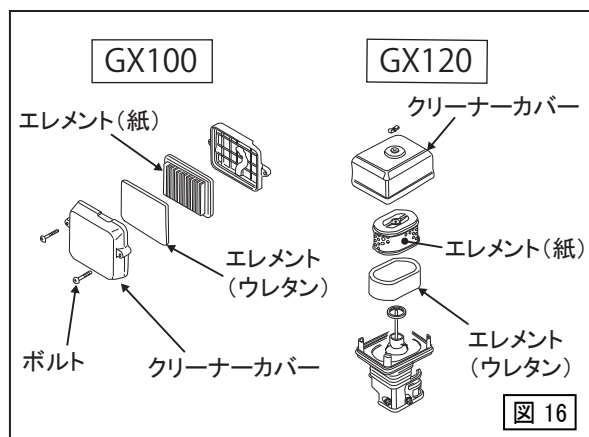
エアークリーナーエレメントの汚れが酷くなると、エンジンの始動不良、出力不足や運転に不調をきたすばかりでなく、エンジンの寿命を極端に短くしますので、必ずエレメントの清掃を行ってください。汚れが取れない場合はエレメントを交換してください。

(詳細は別紙エンジン取扱説明書を参照)

警告

- ・洗油は引火しやすいので、タバコを吸ったり、炎などの火気を近づけないでください。火災を起こす可能性があります。
- ・清掃は換気の良い場所で行ってください。

- エレメントは、10時間毎または1日1回清掃してください。
- エレメントは1年毎または200時間運転毎に交換を行ってください。
- エレメント清掃方法
 1. エアークリーナーカバーを外し、エレメント(ウレタン、紙製)を外してください。(図16)

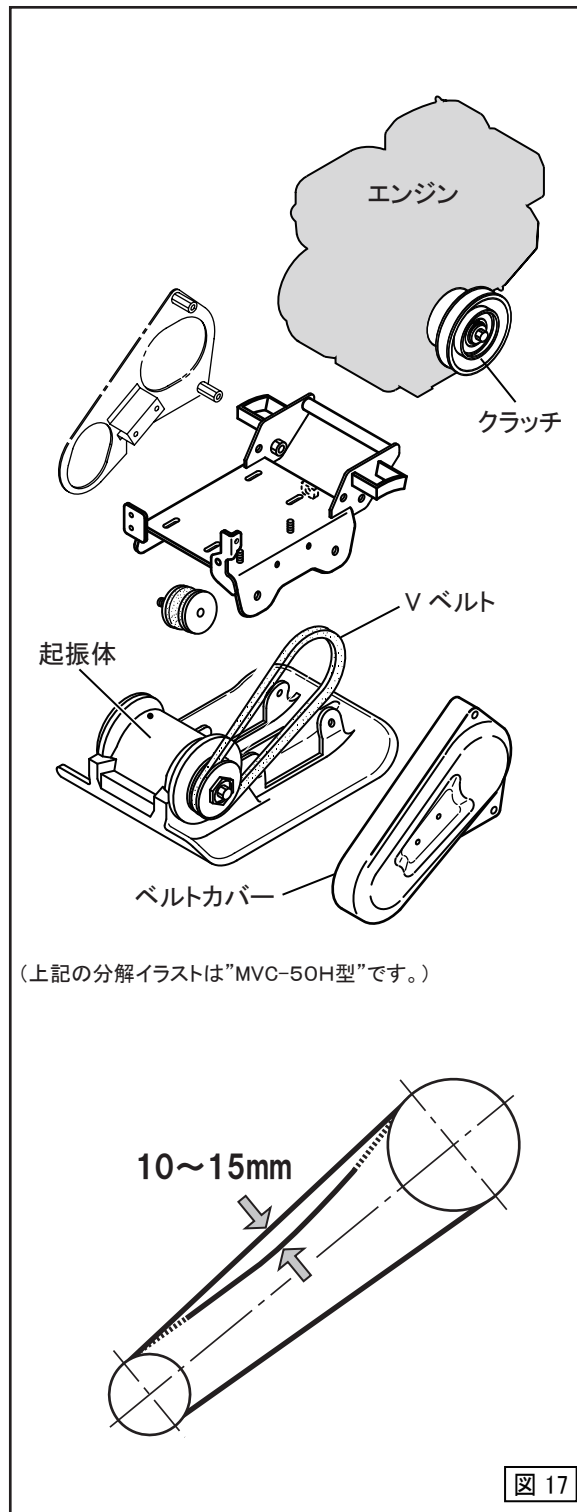


2. エレメント(ウレタン)を洗油または水で薄めた中性洗剤ですすいでよく乾かしてください。
 3. エレメント(紙製)の内側から圧縮空気を吹きつけるか、または軽く叩いて汚れを落としてください。その際、ブラシなどで汚れを落とさないでください。エレメントが破れる恐れや、汚れが紙の繊維の中に入り込む恐れがあります。
 4. 清掃後、エレメントとエアークリーナーカバーを取り付けてください。
- エアークリーナーを外した状態でエンジンを運転しないでください。エンジンが早く摩耗する原因になります。
 - オイルをつけすぎないように注意してください。

12.4 Vベルト・クラッチの点検

1. Vベルト

200時間毎にベルトカバーを外し、Vベルトの張り具合を点検してください。張りの具合は両軸の中間の所を強く指で押して10～15mm位たわむように張ってあれば正常です。(図17)



2. クラッチ

クラッチの点検は、Vベルト点検と同時に行ってください。クラッチの外周ドラムの焼き付きやV溝の磨耗・損傷を目視で点検します。また、V溝が汚れている時は綺麗に掃除してください。ライニングシュー等の磨耗は運転検査で確認します。シューが磨耗してくると動力の伝達が悪くなり、クラッチがスリップします。

⚠ 注意

運転中に振動が弱くなったり、エンジンは正常に回転しても振動しない場合は200時間点検に関わらずVベルト・クラッチの点検・交換を行ってください。

- 起振体オイルはエンジンオイル#10W-30(SAE)を使用してください。

起振体オイル油量

MVC-50H: 300cc

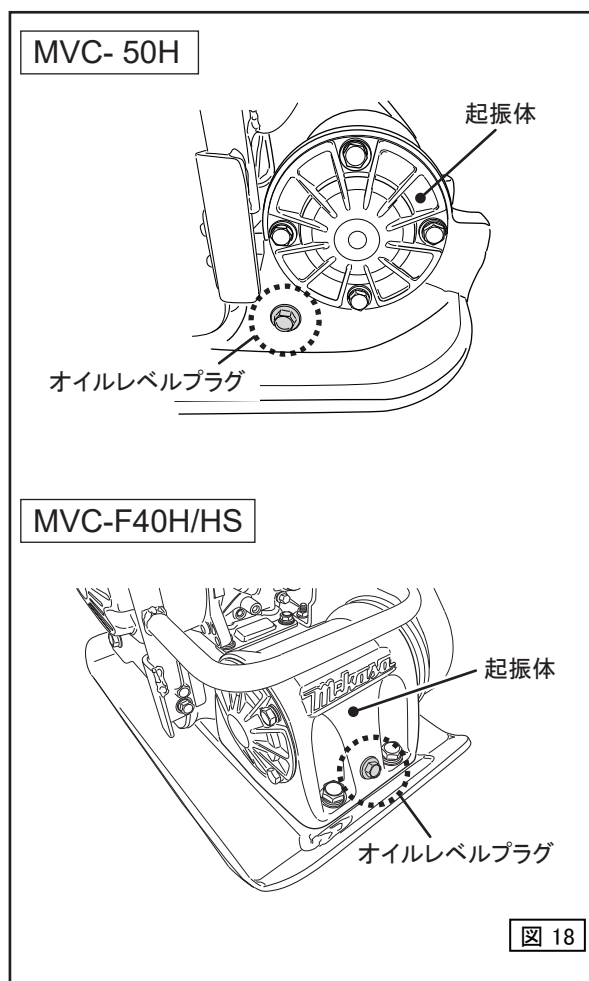
MVC-F40H,F40HS: 140cc

- 起振体オイルは一ヶ月又は200時間運転毎にプラグを外し、機体を傾けて全て排出させ、新しい物と交換してください。

12.5 起振体オイルの点検・交換

本機を水平にして起振体のオイルレベルプラグを外し、起振体オイルが口元まで入っているか確認してください。オイルレベルプラグはMVC-50H型は起振体ケース右側面(反ベルト側)に、MVC-F40H/HS型は起振体ケースの正面にあります。(図18)

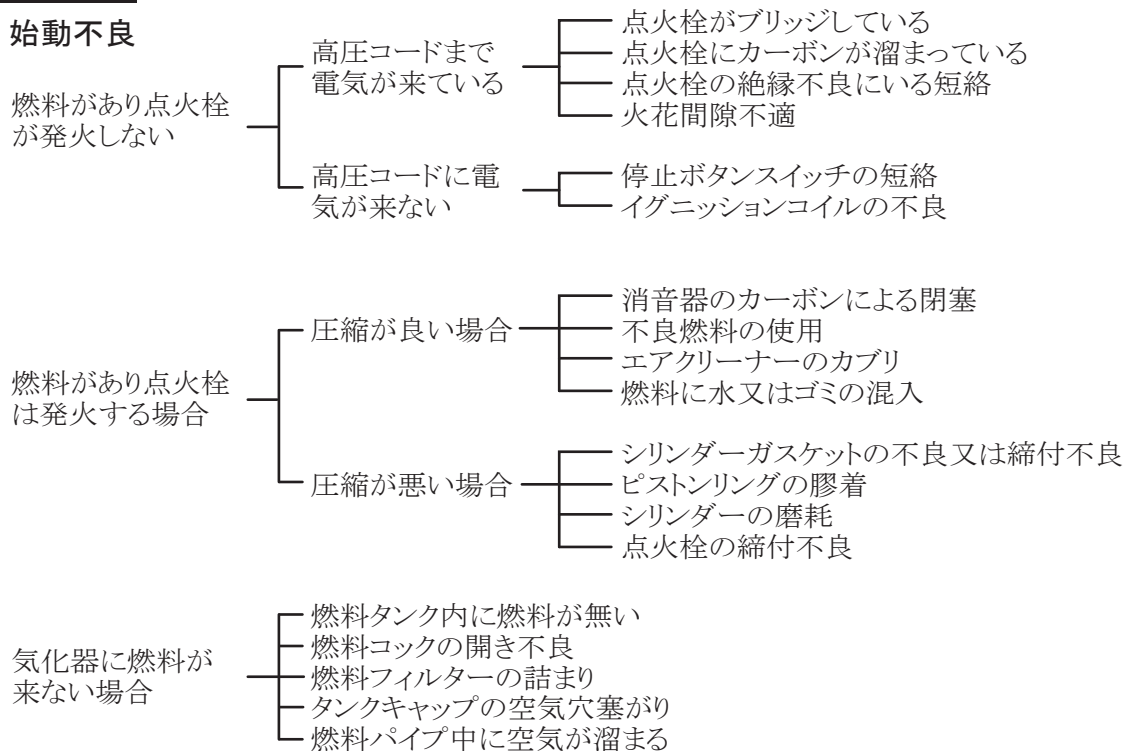
※ MVC-F30H型の起振体はメンテナンスフリーです。オイルの補充や交換は必要ありません。



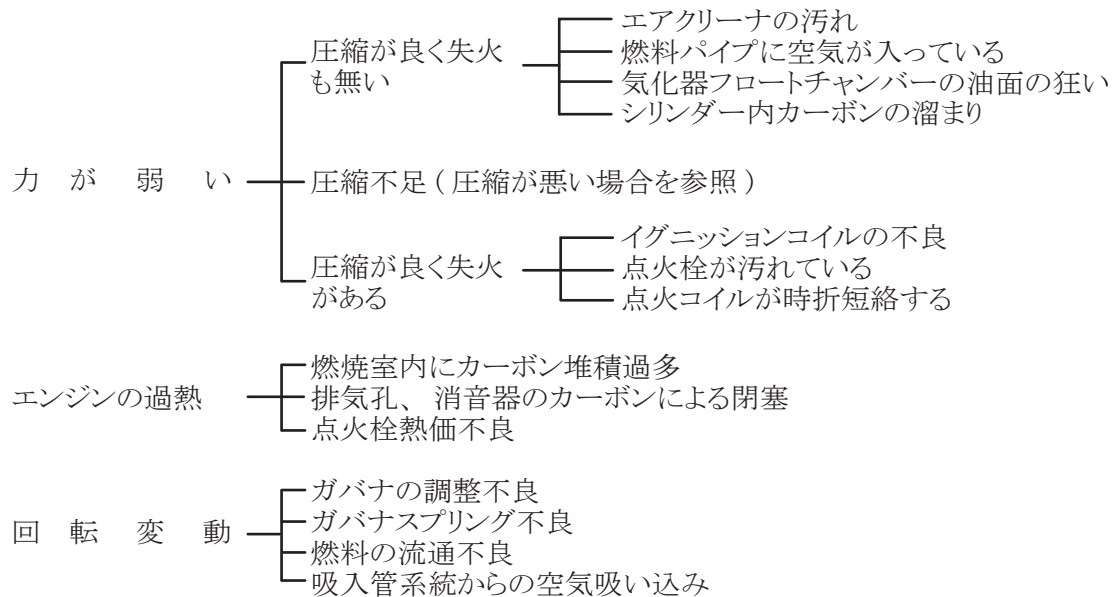
13. トラブルシューティング

13.1 エンジン

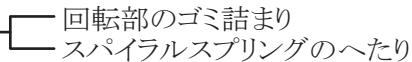
13-1-1 始動不良



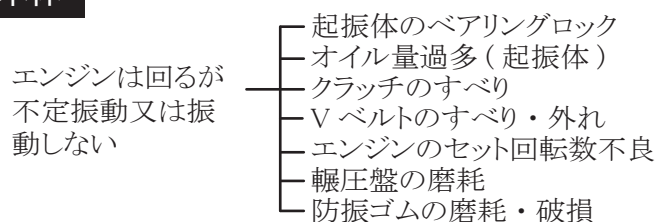
13-1-2 運転不調



13-1-3 リコイルスターターの動きが悪い



13.2 本体



Mikasa

MIKASA SANGYO CO., LTD.

1-4-3, Kanda-Sarugakucho, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-0064, Japan

三笠産業株式会社

〒101-0064 東京都千代田区神田猿楽町1-4-3

修理に関するお問合せ

TEL 048-734-2402 FAX 048-734-7678

部品に関するお問合せ

TEL 048-734-2401 FAX 048-736-6787

その他のお問合せ

info@mikasas.com

Web パーツリスト

<https://www.mikasas.com/MIKASA/index.html>



PRINTED IN JAPAN